

特別支援で育てたい生徒

自らの将来を意識しながら、進んで学習や自立した行動に繋げることができる

本校の特別支援学級の生徒は、高等学校を目指している。どの高校を目指すのかを意識しながら学習をしたり、生活習慣を整えたりすることが大切であると思い、上記のような目標を立てた。高等学校に進学したいとのことであれば、彼らに応じた学習支援をしていくことが必要である。しかし、最初は、どのように関わっていくと良いのか、授業をどのように進めていくと良いのか、模索しながらの状態であった。以下に、今年度の、授業における私の意識の変容について記載していきたい。

・授業実践より

私自身、高等学校に進学したいという特別支援の生徒を受け持つことが初めてであったため、年度当初は、通常学級の中に入りながら、みんなと同じ内容を学習していかななくては、という思いがあった。高等学校を目指すのであれば、いずれ集団の中で学習しなくてはいけない状況になることが予想されるためである。

そこで、数学や国語では、教科の先生と相談し、グループ活動が多い授業や簡単と思われる計算の授業は、通常学級の生徒と一緒に受け、私は支援として入った。しかし、簡単と思われた授業も、生徒たちにとっては難しかったようで、寝てしまう、ボーッとするということが見られた。難しければ授業の途中であっても、4組で学習することを提案すれば良かったのだが、無理に起こしたり、課題をさせようとしたりしてしまった。また、4組での授業のときでさえ、私に、「高等学校に行くのであれば、これくらいは」という思いや、彼らがどこまでできるのか分からなかったこともあり、教科書の内容中心にさせようとした。

私の意識が変わったのは、他の学校の先生と話す機会があつてからである。特別支援学級の生徒でも高等学校を目指す生徒が増えているとこのことを聞いた。支援学級で学習し、力を伸ばし、高等学校を進学する生徒もいるが、希望する高等学校に進学することが難しい生徒もいる。その中で、高等学校へ行くための情報提供を生徒や保護者にしていき、教科書の内容だけではなく生徒に合わせた支援を続けていくことが大切であることを聞いた。その話を聞き、私自身、高等学校に進学させるため、教科書の内容をしなければいけないという思いに囚われすぎていなかったか、ということに気付いた。高等学校に行かせることが目的なのではなく、個々の能力に応じた支援をするために4組がある、と改めて考え直した。さらに、1時間1時間の授業が、「4組で学習することが楽しい」という居心地の良さと、その上で学習が少しでも「できるようになった」と感じてくれたら良いのではないかと思った。

そこで、教科の先生と相談し、授業で押さえてほしいポイントを教えてもらい、教科書の内容を取捨選択しながら特別支援学級で学習を進めた。さらに、特別支援学級での授業の様子を教科の先生に伝え、共有を図り、次はどのポイントを押さえるか、話し合いも適宜行った。また、教科書の内容だけではなく、生徒に応じた課題も行った。

・授業実践を通しての学び

生徒Aは授業の内容が分からないとすぐ寝てしまう生徒である。いかに生徒Aとやり取りをしながら、授業をするのが大事であった。数学では、正の数負の数の計算もままならず、本人も諦めたり、答えを写したりしてしまうことが多かった。そこで、授業の最初に計算する時間を設けたり、テストの前には復習を多めに取ったりして、自分で解くことを伝えた。根気の作業である。それでも、じっくり本人ができそうな内容を選択し、共に考えていくことで、力が付いているのを感じた。生徒Aは、数学の振り返りで「計算が少しできるようになった。来年度は計算をしっかりとできるようになりたい」と話している。正の数負の数の計算は完璧にで

きるようになったわけではない。しかし、少しずつ積み重ね、本人が「できるようになった」という思いが持てたのは嬉しかった。

また、国語の漢詩の授業では、自らワークを開き、「五言絶句って言うのか」と本時の内容に合わせて先取りする様子も見られた。「五言絶句」という言葉はテストでは書けなかった。それでも良い。その時間、そのときに何となく分かったという感覚や、楽しかったという思いが持てたことが4組で学習する意味があると考えた。

生徒Bは、手順が決まっている計算はあまり苦手意識をもっていないが、図形には苦手意識をもっている。おそらく、図形には、定義や性質を利用して様々な解き方があるため、どのように解いていくのか分からなくなるのだと思う。

数学において三角形の外角と内角について授業を行った。前時で、実際に紙を切らせ、内角と外角の関係について学習をしていたが、いざ問題を解くとなると、生徒もなかなか発言できずに沈黙が続いた。そこで、解き方を伝えていると、生徒Bが「他にも方法があります」と発表した。沈黙の間、生徒がじっくり自分の頭の中で考えており、それを伝えてくれた。

図形の学習になってから、私は「平行と錯覚・同位角の関係」「三角形の内角と外角の関係」など、ポイントを授業の中で示しながら学習を進めていた。それが吉と出たのか、本人が少しずつ自ら答えを導き出せるようになっていた。生徒Bは、振り返りで「図形はあまり好きではないが、4組で学習して前よりできるようになった。証明も少しできるようになった。」と話している。

内容を吟味しながら4組で共に学習したことが、生徒たちの学習意欲や自信に繋がっていった。挨拶をする、宿題を出す、時間を守るなど、基本的な生活習慣で改善しなくてはいけないことは多々ある。高等学校に入ることだけが全てではなく、その後どうしていきたいのか、ということも視野に入れて支援していく必要がある。また、来年度は高校受験も控えている。今年度の実践に自信を持ち、本人が納得して進路を選べるよう支援をしていきたい。